

福山市立女短大 加納三十子

目的 食料費に占める外食費の割合は年々増加の一途をたどっており、外食産業は鉄鋼産業に匹敵する市場規模になっているともいわれている。また、外食産業の進出は子供達が自立した食生活者として成長することに影響を与えていることが考えられる。すなわち子供達が規則的な食生活、必要な食品の選択、調理技術などを習得することをむっかしくしていると考えられる。したがって、本報では中・高校生の外食産業の利用実態と、これらの利用が食生活への意識や食生活の実態、健康状況におよぼす影響^①について報告する。

方法 調査対象：福山市内J中学生239名、広島県神石郡内G中学生107名、福山市内I高校生251名 調査時期：1983年7月上旬 調査項目：食生活および外食産業に対する意識、外食産業利用の実態、食生活の実態、健康状況。なお、本調査では外食産業として持ち帰りズシ、持ち帰り弁当、ハンバーガー、ファミリーレストラン、喫茶店をとりあげた。

結果 1. 中学生ではハンバーガー、高校生では喫茶店の利用頻度が高かった。なかでも給食のないJ中ではスシ、弁当、ハンバーガーが昼食として利用されていた。また、夕食に1人で外食産業を利用するものも約7%みられた。2. 週に1度程度の外食産業の利用を普通と考えていた。3. 喫茶店等は外出のついで、スシ・弁当は簡便性で、ハンバーガーは味を好んで利用していた。4. 外食産業を利用するほど濃い味を好み、葉菜類、根菜類、海藻類などの食品素材の摂取が低く、加工食品の利用は高かった。5. 外食産業の利用が多いほど不定愁訴を訴える割合が高かった。